

同好会だより

岩見沢歯科医師会 テニス同好会

加 藤 久 尚

かねてから旗手一永先生と話していた「岩歯テニス同好会」でしたが、なかなか発足の機会に恵まれずに時間が過ぎておりました。それが偶然のきっかけで、ついに満を持して発足することになりましたので、先生方にご報告方々お話をさせていただきます。今回の原稿は「岩歯テニス同好会」会長の旗手先生からのご指名でありますので断ることもできず、スポーツは何でも大好き、文章を書くのはちょっと苦手な私ですが、喜んで？(しぶしぶ?)担当させていただきました。先生方に少しでもテニスを身近に感じてもらえるとうれしいです。

まず私とテニスについて、書かせていただきます。私がテニスラケットを初めて握ったのは大学に入学してからで、部活は歯学部バスケットに入っている傍ら、ミーハーな気持ちと少々モテたいという不純な動機でテニスを始めました。ところが幸か不幸か、入ったテニス同好会は北海道内の大学で1番強い同好会で、男女あわせて同好会員が120人もおり、練習は部活張りという超気合いの入った同好会でした。新入生は夏休み前まで球拾いが中心で、非常に封建的な面も持ち合わせいる同好会でした。私は2年生の秋を境にすっかりテニスの虜になってしまい、歯学部バスケットは退部してテニスに全身全霊を捧げていくことに決めました。本来凝り性の性格であり、やると決めるととことんテニスを中心にした生活になりました。とにかく上手になりたい一心でオープン競技であるUHB杯、グランドホテル杯など月1回のペースで大会に出場しまくりました。テニスで強くなるため、家庭教師のバイトをやめ、宮の森テニスクラブのコーチのバイトを始めました。また1日の大会で5試合できる体力がないと優勝できないので、オールナイトテニスで8時間連続で試合の練

習をしたこともあります。さらには、おじさんテニスにも対応できるように曙テニスクラブにも入会して、大人のテニスも学びました。余談ですが、曙テニスクラブでは後にポスト松岡修造として嘱望されることになる小学生の全国チャンピオンの鈴木貴男君(現在プロテニスプレーヤー)の練習相手をした時期もありました。こんな努力のいかいもあり、大学5年生になるとやっと同好会の1軍入りを果たし、ついには有明コロシアムで開かれる文部大臣杯全日本学生庭球同好会連盟テニス大会に北海道ブロックで優勝して出場することができました。妻とも同好会で知り合い現在も家族4人でテニスをすることもあります。大学を卒業してからは、仕事も忙しく学生時代ほどはできなくなりましたが、全道歯科医師会テニス大会でダブルス優勝したこともあります。このようにすべてテニス中心の生活でしたが、テニスにおいてはある程度やり尽くしたこともあり、また新婚旅行で初めてゴルフをしたのをきっかけに、すこしテニスからは遠ざかっていました。しかし(現在私は49歳ですが)50歳になるとシニアの大会に出場できるので、ここ数年冬場にはテニスをしています。

さて前置きが長くなりましたが、岩歯テニス同好会の話にもどります。

今年の10月岩歯親睦野球大会の懇親会を行っていた時のこと、1ヶ月以上前から楽しみにしていた翌日の試合が雨で中止になってしまったので、あきらめきれない運動好きの数名でインドアテニスコートを予約することになりました。野球の中止は残念でしたが、とても楽しくテニスをすることができました。そして、これがきっかけで会が発足することとなりました。

11月12日(土)には岩見沢ポルタビル内テニスコートにて初の例会がありました。そしてテニスの例会の後は清寿司で懇親会を行ない、日頃の診療の情報交換や人事管理の相談など有意義な時間を過ごすことができました。ここで、現在の同好会メンバーをご紹介します。

旗手一永先生(会長)…テニス経験が長く、癖がないフォーム。ストロークを中心にゲームを組み立てます。ストレートのパッシングショットが大好きであります。サーブはアンダーサーブを含

め3種類と球種が多いです。さすがに会長といわざるを得ません。

久恒泰宏先生…持ち前の体力と運動神経で球数を打つたび上達し、学習曲線は同好会で1番です。ただし非常に汗をかくのはやや無駄な動きが多いせいかもしれません。

山田貴文先生…オープンスタンスから繰り出すショットはコースの予想ができません。サーブもコーナーをついており、ノータッチエースもしばしば、ピッチングと同様ナイスコントロールです。

高師則行先生…野球ではヘルメットを飛ばすほどバットを思い切り振り抜きますが、テニスでは守りと攻めがしっかりした堅実なプレーを見せます。トリッキーな動きでの揺さぶりも好きで、絶妙のタイミングでポーチボレーを決めたときには「どや顔」を見せることがあります。

皆さんも冬の運動不足を解消のため、来期のゴルフや野球の体力向上のため、あるいはその後のおいしいビールのため…と目的はさまざまでしょうが、一緒に汗を流して楽しい会に参加しませんか？ お子さんや女性会員も募集中ですので、興味がある方は旗手先生か加藤までお気軽にご連絡下さい。



野 球 部

<総 括>

7月23日、24日に行われた苫小牧大会で、Aチームが優勝（Bゾーン）、Bチームが準優勝（Cゾーン）という、過去に類を見ない快挙を成し遂げました。14回に及んだ栗沢でのナイター練習、夕張での2日間の合宿、対外強化試合3回、親睦野球2回、バッティングセンターでの個人練習、と今回は本当によく練習し、充分に試合勘を養った成果ではありますが、様々な場面でサポートして下さった、応援団を始め会員の先生方、すべての方々にこの場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

Aチームは谷本・安岡先生、Bチームは勝木、山田貴先生と、安定した投手2枚看板の存在がとても大きく、また他のチームに比べてエラーが非常に少なく、バットスイングは速く、ハイスピードカメラで各人の打撃フォームを解析できたことで打撃が向上し、総合力でA、Bチーム共に群を抜いていたのではないかと思います。

次回の釧路大会（24年7月7日、8日）、AチームはAゾーンで、BチームはBゾーンで戦うこととなります、また大いに練習をして備えたいと思いますのでご協力の程よろしく願いいたします。

Aチーム野球大会観戦記

久 恒 泰 宏

○予選第1試合

岩見沢A 13－3 空知A

昨年まで空知Aチームを支えてきた安岡投手が岩見沢Aに移籍してきたことで、最初からこの試合には勝てないと空知チームは考えていたようでした。当の安岡先生は古巣相手には投げにくいと登板を回避し、谷本投手が5回を完投しました。空知の後任エースは好投手でしたが、1回表先頭前田選手のクリーンヒットに始まり、エラー、四球、盗塁、長打、振り逃げ等の連続で4点を先制、2回裏に突然流れが悪くなって5－3と迫られる場面も

ありましたが、打撃・守備ともに地力の差は大きく、中盤からは圧倒して終わってみれば大差でした。

○予選第2試合

岩見沢A 10-0 十勝B (3回コールド)

満を持して安岡投手が先発し、初回の相手先頭バッターがサードゴロエラーで出たものの、直後の盗塁を武田捕手が刺してから全く付け入るスキを与えず、3回を打者9人、ノーヒットノーランで完全に抑え込みました。(エラーが無ければ完全試合!) 安岡選手は打つ方でも3打数3安打の活躍でした。最後は代打簑輪選手のショートゴロが悪送球を誘い、サヨナラ勝ちしました。

○準決勝

岩見沢A 15-0 札幌C (4回コールド)

初回1点を先制したあと安岡選手が本塁で憤死してしまいましたが、4番武田・5番谷本選手の連続四球の後、6番高師選手の2点2塁打が出て、また勢いがつき打ちまくりました。2回表は7人連続ヒット、4回表は山本選手の満塁の走者一掃3点2塁打と武田選手の場外3点ホームランが出て、ビッグイニングの連続で大量15得点。先発安岡投手は北医大 川上教授にデッドボールを与えてしまい、その後苦しみながらもその教授をけん制で刺すなどして3回を投げきり、4回裏は谷本投手がリリーフ、二人合わせてまたもノーヒットノーランを達成しました。

○決 勝

岩見沢A 24-5 札幌F

初回1点を先制した裏に2死2、3塁のピンチを迎えましたが、サードからの悪送球を一塁の倉増選手がみぞおちでとめてなんとかアウトにしてからは再び波に乗り、これでもかとばかりに打ちまくって3回表で12-0と序盤で試合を決めてしまいました。準決勝・決勝は個人打撃賞もかかっているのに、また相手チームも「来年のために頑張るぞー!」と叫んでいたのに、失礼があってはならないと手を抜くわけにもいかず、とても長い試合になり非常に疲れました(決勝は7回までコールドなし)。3回裏無死から突然調子を崩しアウトが取れなくなった安岡投手を谷本投手がロング

リリーフし、それまで同様にうまく相手を打たせたり要所で三振を奪ったりして好投しました。決勝は全員安打18安打の猛攻でした。

結局4試合で、104打数43安打(うち本塁打1、三塁打3、二塁打17)打率.422、得点62、四死球30、盗塁51、三振7、失策はわずか4でした。投手部門でも4試合19イニングで失点8、被安打9、与四死球9、奪三振13と、二人ともほぼ完璧な内容でした。

個人記録では武田選手がMVP、前田選手が優秀選手賞、加藤選手が打撃賞1位を獲得し、打撃賞3位に高師・安岡選手が入りました。賞は逃しましたが前田選手も予選からの打率が5割を超えています。他のチーム内成績を見ますと、前田・安岡選手が最多安打7、武田・山本選手が打点王9、安岡選手が得点王10、前田選手が盗塁王12、加藤・谷本選手が最多四死球6、久恒選手が勝利打点王3(前田選手のおかげです)と失策王2でした。



岩見沢Aチーム 優勝決定後 鍵谷総監督を胴上げ

Bチーム野球大会観戦記

小 浪 知 之

○予選第1試合

岩見沢B 19-1 苫小牧B (3回コールド)

○予選第2試合

岩見沢B 19-1 旭川C (3回コールド)

試合前日の主将会議における抽選会で勝木主将が「2番を引いたら勝てそうだな」と思っていたら本当に2番を引き、くじ運の強さが今大会におけるBチーム大躍進の原動力となった。球場はCゾーンにありがちな小学校のグラウンドや川原の球場など外野手が後逸するとランニングホームラ

ンになるような球場ではなく、外野フェンス付きの立派な少年野球場で試合を行うことになり、選手全員ハイテンションの中、予選試合が始まった。第一試合の相手は地元開催の苫小牧Bチーム。さすが地元だけあり苫小牧チーム応援席には観客も陣取り完全アウェイの中、陰の主将で試合中人一倍声を出していた原田選手の指令による「2ストライクまで待て」そして「ボールに当たっていけ！」作戦が功を奏し、制球に苦しむ相手投手からデッドボールとフォアボールの山を築き着実に点を稼ぎ、投げては勝木投手のほとんどフォアボールの無い完投により見事19-1で勝利した。

続く2試合目は旭川Cチームとの対戦。小浪選手が一塁への走塁中に右大腿屈筋（ハムストリング）の断裂を起こし、走塁不能となりダブルプレーを食らいベンチに退いた。また、川野捕手の眼鏡が壊れるというハプニングも重なり不利な状態となるも、こちらも負けじと5-4-3（山田貴、旗手、九津見選手）の併殺を決めたりと、チーム一丸となり打線も奮起し大量得点を奪い、投げては勝木-山田貴投手の見事なりレーで19-1で勝利した。

鍵谷総監督談：内野の守備もよかったし、レフト寺澤選手、センター小浪選手のところによくフライがあがり、よく取ってくれた。対旭川戦では5-4-3の併殺を決めたが、過去にも見たことがない本当にきれいに決まったプレーだった。

○準決勝

岩見沢B 12-11 室蘭B

翌日準決勝は室蘭Bチームとの対戦。1、2回は打線が爆発。4番寺澤選手、打撃賞を受賞した川野選手など皆良く打った。守っては遊撃手品川選手のバックハンドキャッチなどもあり、前半は優勢に試合を進めた。しかし、3回以降は暑さとアルコールパワーが切れてきたせいで、だんだんバテてきたため徐々に追いつかれだした。最終回裏には1点差に追いつかれ12-11で二死一塁。相手バッターはそれまで快打を連発し長打も打っている首藤選手。逆転サヨナラ負けが脳裏をよぎる中、力んだ首藤選手が打ち損ねピッチャーゴロでゲームセット。辛くも勝利することが出来、決勝

へ進出！来年度のBゾーンへの昇格が決定した。

○決 勝

旭川B 12-2 岩見沢B

相手投手の速球に苦戦。初回こそ1-1のタイであったが、相手打撃陣に巧く攻め込まれてしまい、旭川Bに徐々に点を入れられて引き離される展開になり4回終了時には10点差がついてしまった。しかし岩見沢Bチームは皆最後まで声を出し一生懸命プレーしていた。

山田貴投手談：相手が一枚上手だった。きれいに打たれた失点ばかりで、四球もエラーも一つもなかった。

九津見監督談：大活躍していた寺澤選手が決勝終盤で疲れ果て、「レフトを代わって下さい。」と申し出たため、自分がファーストからレフトに、寺澤選手がレフトからセンターに交代したところ直後にセンターフライが来た。レフトに飛んでこなくてよかった。決勝では脱水症状で力が出なかった。来年は少し酒を控えめにしたいと思う。また、冬場のトレーニングも必要だと感じた。

旗手選手談：準決勝の最後の場面ではサードの自分もショート品川選手もさすがに「自分のところに飛んでこないでくれ。」と願った。打ち損じてくれてよかった。試合に勝てたことも勿論よかったが、それ以上によくまとまったチームになったことが良かった。毎試合楽しくでき、とてもいい感じのチームだと思った。野球部をまとめる鍵谷会長はじめ執行部の先生方や、谷本・久恒先生の熱意が皆に伝わっているのと感じる。

尚、敢闘賞には川野選手が選ばれ、打撃賞2位に川野選手、3位に山田貴、勝木、品川選手が入った。



岩見沢Bチーム決勝戦メンバー

ゴ ル フ

昨シーズンを振返って

岩見沢デンタルゴルフクラブ
会 長 山 本 達 郎

平成23年度の岩見沢デンタルは、4月初めに役員会を開催して、総会に向けての、競技日程、その他を検討します。幹事は、佐々木龍治先生、永山先生、渡辺先生、高橋博寿先生です。

4月18日(月)、「清寿司」にて、9名出席で総会を開催しました。今シーズンは、会員15名(美唄歯の吉村先生、川上先生を含む)でスタートしました。会長挨拶に続いて、23年度の競技日程、年会費、賞品、競技方法、開催コース等を協議しました。総会終了後、鍵谷光三先生の音頭で、乾杯をして、今シーズンの活躍を誓いました。

4月29日(祝)：デンタル会長杯、8:30、雉ヶ森。(12名参加)

5月22日(日)：月例、8:00、雉ヶ森。(10名)

6月19日(日)：月例、8:00、雉ヶ森。(7名)

7月10日(日)：第44回北海道歯科医師ゴルフ大会、旭川国際C.C。

7月17日(日)：月例、8:00、雉ヶ森。(10名)

9月11日(日)：永山杯、8:30、雉ヶ森。(11名)

10月10日(祝)：堀江杯、9:48、札幌ゴルフクラブ由仁コース。

10月23日(日)：デンタルラストコール杯、9:00、雉ヶ森。(7名)

10月は、ラウンド後半、大雨の為、プレー不能で、ハーフのみのプレーでした。

12月5日(月)：納会、19:00、清寿司。(9名)

次に、各コンペの競技成績を報告します。

《23年デンタルゴルフ成績》

4月29日 デンタル会長杯(雉ヶ森) ダブルペリア

1位	佐 武	GROSS	92	NET	71.6	
2位	永 山		94		73.6	
3位	加 藤		99		73.8	
4位	吉 村		96		74.4	
5位	館 山		103		75.4	
6位	山 本		97		76.6	
7位	岡 本		96		76.9	
8位	佐々木		95		77	ニアピン
9位	渡 辺		100		77.2	ニアピン2ヶ
10位	川 上		105		78.6	
11位	西 村		101		79.4	ニアピン

5月22日 月例(雉ヶ森)

1位	永 山	GROSS	92	NET	75	ニアピン
2位	加 藤		93		76	ニアピン
3位	館 山		88		78	
4位	佐々木		90		78	
5位	岡 本		92		78	ニアピン2ヶ
6位	山 本		101		85	
7位	佐 武		99		86	
8位	渡 辺		107		86	

6月19日 月例(雉ヶ森)

1位	佐々木	GROSS	86	NET	74	
2位	鍵谷(光)		101		74	
3位	竹 内		81		75	
4位	館 山		87		77	ニアピン
5位	山 本		94		78	
6位	永 山		95		83	
7位	渡 辺		105		84	

7月17日 月例(雉ヶ森)

1位	岡 本		85		71	ニアピン
2位	佐々木		82		74	
3位	川 上		96		78	
4位	山 本		97		81	
5位	竹 内		88		82	
6位	渡 辺		103		82	ニアピン
7位	吉 村		97		85	

9月11日 月例(雉ヶ森)

1位	佐 武		86		73	ニアピン
2位	吉 村		88		76	
3位	鍵谷(隆)		90		76	
4位	渡 辺		100		79	
5位	川 上		99		81	
6位	館 山		92		82	
7位	山 本		98		82	
8位	今(DT)		98		83	
9位	岡 本		94		84	
10位	加 藤		100		86	
11位	永 山		100		88	

10月10日 堀江杯 由仁コース・ダブルベリア
(悪天候のため前半で中止)

1位	佐々木	46	35.2	ニアピン
2位	永山	47	36.2	
3位	加藤	50	36.3	
4位	鍵谷(隆)	43	37.0	
5位	竹内	41	37.4	
6位	山本	52	37.6	
7位	岡本	45	39.0	ニアピン
8位	西村	49	41.8	
9位	鍵谷(光)	57	42.6	
10位	渡辺	59	45.8	

近年は、ゴルフ人口が減少傾向（デンタルも然り）、にありますが、趣味の多様化、厳しい経済状況、時間的制約、等が要因として考えられます。

ゴルフは我々歯科医にとって、健康管理、ストレス解消、異業種の人達との交流等、一番良い、スポーツと思います。デンタル役員一丸となって、会員増強に努めたいと思いますので、岩歯会員の皆様（ビギナー大歓迎）の協力をどうぞ、よろしくお願い致します。

拙文ですが、これで筆を置かせていただきます。

10月23日 ラストコール杯 雫々森
(悪天候のため前半で中止)

1位	川上	48	39	
2位	佐々木	43	40	
3位	永山	48	42	
4位	山本	50	42	
5位	渡辺	54	43.5	ニアピン
6位	館山	54	49	
7位	鍵谷(光)	62	51	

2011. 10. 10

堀江杯



札幌GC 由仁コース



2011. 10. 10

